

第1回元町山手地区再整備基本構想・基本計画検討委員会 議事要旨

- 1 日 時 平成30年8月23日(木) 9時30分～11時30分
- 2 場 所 兵庫県民会館1202会議室
- 3 出席者 別紙参照
- 4 主な意見

※ 開会、あいさつ、委員長の指名、委員紹介、資料の説明については省略するとともに、各委員等の発言内容は一部要約しています。

- (委員) 県庁周辺は、ヴィーナステラスからの眺望景観を守るため、神戸市が建物の高さや幅などを規制・誘導している地域である。ヴィーナステラスからは、現状でも神戸のシンボルであるポートタワーを見通すのが困難な状況であり、少なくとも現状の眺望景観はできるだけ維持してもらいたい。地区を再整備するに当たっては、そうした神戸らしい眺望景観に配慮した整備を行う必要がある。
- この地区そのものも、兵庫県公館や相楽園、県庁周辺の緑地など、良好な景観や環境が維持されている地域である。にぎわいの創出などは必要であるとしても、景観や環境を大切にす視点が欠かせない。
- (委員) 商工会議所で策定した神戸経済ビジョンにもあるように、国際都市神戸としてふさわしいまちづくりを目指していくべき。
- 県民の立場から考えると、行政の新しい機関ということであれば、ワンストップサービスを含めた利用しやすい施設配置が良い。
- 三宮から神戸まで一連の回遊性を大事にするとともに、南北軸をどのように織り込みながら、良いまちづくりを進めていくかが大事である。
- 県庁は兵庫の顔でもあるので、顔としてふさわしいと同時に、防災拠点としてしっかりした庁舎を含めたまちづくりが必要である。
- 行政機関の再整備という観点ではなく、民間の知恵やお金を活用しながらのまちづくりをお願いしたい。
- (委員) 昔は海か山かと言っていたが、今は海側が中心となっており、北へのアクセスが減っているので、それを復活させたい。その中で、資料では、南北への軸が直線に描かれているが、直線は距離の遠さを感じさせるため、実際に歩くと遠いかもしれないが、曲線で示せば感じ方が変わる。
- また、発展の歴史や経緯が伝わるように示せたら良いのではないか。例えば、むやみに看板を立てるのではなく、WiFiを活用するなど別の方法で歴史や道標を示せたらよいのではないか。景観を大事にするという意味でも、例えば、電信柱を地中に埋めるなどと同じように、看板を立てる必要はないと思う。

- (委員) 坂道の街というのは、登ることに抵抗感があり、どうしても降る方を考えてしまう。楽しく山のほうに向える魅力を踏まえたアーバンデザインが必要だと思う。
- (委員) 県庁をどうするのかという話について、神戸の街をどうするのかの中で県庁の話を進めていくのか、県庁そのものを県としてどう考えているのかという方向性で考えたとき、今の県庁を改修するのかこのあたりで建替をするのか、県庁をこの場所以外という発想はないのか、といったこと含めて考える必要がある。
- 日本海側まで含む兵庫県として考えると、この場所が本当に県民サービスにとって最適な場所なのか。篠山市域からすると、大阪には行きやすいが、神戸は少し行きにくい。南北の狭い範囲の中で考えると、県として南側へ一極集中をどうしていくのか、分散をどうしていくのかということなど、そもそも的なことを考える必要がある。
- 神戸のイメージを大事にしていく観点と、兵庫五国のそれぞれの持ち味をこの位置でどのように示していくのかという観点も必要。
- 三宮の開発はもちろん神戸市が行っていくことだが、元町もその中で神戸市がベースで考えていった方が、この地に合ったまちづくりが出来るのではないと思う。その中で県庁の位置付けを考えていく必要がある。
- (委員) この場ですぐに答えが出るものではないが、県の行政システムをどうしていくのか、各県民局も含めた県民サービスの視点は、今回の議論の前提となる。この会で結論が出るものでなく、県議会等も含めた幅広い議論が必要である。
- (事務局) 元町山手地区の中の県庁として考えるのか、まち全体をどうしていくのか、どちらから先に考えるのかというのは、大変難しいところである。そもそも県庁所在地がこの地で良いのかということも含めて、整理させていただく。
- (委員) 神戸市の都市計画、都市景観行政との関わりについて、都市計画になってからの個別の施設ごとの協議ではなく、全体構想の段階で協議調整を進めていく必要がある。
- (委員) 現状と課題を分析するにあたって、特別に調査を行っていないということだが、この地区の人々がどう行動しているのかという空間のアクティビティ、どういうルートを歩いてどういう景観や風景を楽しんでいるのか、事実を調査した上で提案をして欲しい。神戸市は旧居留地からはじまり、この150年間で、結果的には継ぎ足しで都市空間を作らざるを得なかった。今回の整備は、県として新しい拠点を提案して、150年、200年先を想定できるような、言ってみるなら一本の楔を打ち込むことを提案し

ているものと理解している。そのために、神戸市の協力も得て、今後しっかりと事実に基づいた提案をお願いしたい。

今回提案している六甲山から縦軸に下りてくる空間と、三宮から海、新神戸の通りの2本のラダー（梯子）が通っている。今回、左右のこれらをつなぐ重要なチャンスでもあるが、三宮駅と元町駅との関係をどのようにするのか考えない限り、その間にあるアクティビティをさらに豊かにすることはできない。そのため、県と市の有機的な連携をしっかりと持ち、元町駅と三宮駅との関係もしっかり組み込んだうえで、このゾーンが孤立しないような提案をする役割が県に求められている。

都市空間の構造は街の骨格であり、骨格の作りを間違えると、どこに核となる心臓を配置すればよいのかあやふやになるので、これから委員会で出てくる課題を裏付ける資料を集めて提示していただきたい。

兵庫五国を全て理解できる場所が県内のどこにもない。他県では、そこにいけば県下の実態が分かるデータベースがあるなど、レファレンスセンターがある。新たな拠点として整備するなら、レファレンスセンターとしての役割、各五国の情報がしっかりと集約されて、ここに来ればどこに行けばよいのか、ワクワクできるような拠点が生まれれば良い。

各五国が自分の拠点で主張するのではなく、連携をする仕組みや、集約された情報拠点があって、そこに県民や観光客、訪れたインバウンドの方々や、あるいは新しい起業家もここに情報を得に来るような拠点になれば。

兵庫県は情報の集約力と発信力が劣っているので、この新しい拠点を情報の拠点として整備できればと思う。

六甲山から海までの断面を常に考えることが必要で、海からの風が六甲山にぶつかり豊かな雨を降らす。そういった自然生態の仕組みも含めた視点を忘れずに検討する必要がある。

事実に基づいた人々のアクティビティも忘れてはいけないし、県政150年を迎えて、これからの新しいスタートとして楔を打ち込むんだという視点を是非組み込んで欲しい。

(委員) 人々のアクティビティのデータ収集は難しいことは承知しているが、見える化をすることが大事。街の変化は常に起こっている。震災後、県庁周辺も随分変わっており、若い人たちが集まるスポットが思わぬところから出てくるなど、そのあたりを感度良く反応する必要がある。そうしないと、ハードの部分だけを見がちになってしまい、地域全体の流れを見落としてしまう。

兵庫県は広大な圏域を持っているので、県全体としてのアイデンティティの拠点となるようなものを、この基本構想の中でも追求していくべきである。

(委員) JR元町駅は使いにくい点もあり改善すべきところはあるが、構造上難しいことと、周辺に整備するための場所がない。

この地区は、起伏はあるが魅力のあるところだと思うので、目的を持って訪れる人や、何気ない散歩コースの一部として楽しむ人がいるものと想像できる。そうした場合に、高齢者や障害者の方達にも楽しんでもらうためには、元町駅からの徒歩だけでは厳しいので、三宮や神戸からの二次アクセスを検討することも必要だと思う。

(委員) どうしても公共交通機関に対する期待は高くなる。三宮と神戸が東西でつながっているが、南北への切り替えのところで、坂道などが大きなネックになってしまっている。その点の改善の検討も大きなテーマのひとつだと思う。

(委員) 神戸市内には人の賑わいの場所として、居留地や南京町など個性的な場所が数多くあるが、県庁の北側である元町山手は集客という点では弱い。

三宮と神戸の間に新たな拠点が出てくるということは、非常に良い話だと思うので、この地域の資源を活かし、特徴のある地域になればよいと感じている。

アクセスとしてまちのシンボル軸の強化には注目している。山側では諏訪山のハイキングコースは人気であり、なだらかな勾配で歩きやすい地域であるため、そういうことを活かしながら山を楽しむのも良いので、歩くのが好きな外国の方に結びつけば、いい場所になると考えられる。

庁舎を建替えるのであれば、景観に配慮したデザインの建築物にして欲しいことと、環境に優しい県庁舎にしてほしい。コストが掛かるが、民間では難しいエネルギーの面的利用についても検討してほしい。

(委員) この話は県だけで出来るものではないし、神戸市にとっても重要な場所であるので、神戸市と連携しながら、環境形成を進めていく必要がある。

神戸市には特色のある個々のスポットがあるので、それらをつないでいくような取組を実現してほしい。

(委員) 地区内には様々な諸団体や関係協会の拠点もあるが、一般の県民は何があるのかをよく知らないのではないか。それらも出来るだけ県民と繋がって行くような形での空間表現も必要ではないか。県とのつながりの深い組織を、この機会に集約するのも良い。

県庁がこの地区に移転してきてから様々な施設が集積していった歴史を持っており、その一つが大学といった教育施設だったこともあった。その中で神戸女学院はキャンパスを郊外移転したが、高度成長期以降、このあたりも含めた市街地では大学の拡張は抑制されてきた。今一度大学のあり方を考えてみると、今の広大なキャンパスを持つアングロサクソン型の郊外型大学ではなく、色々なところに広い人材を育成するため、街のなかにインフィルされるサテライトキャンパスを誘致することを考えても良いのではないかと思う。

(委員)

本日は、基本構想ということでランドデザイン、いわば夢物語を語ってビジョン・方向性を示す場と認識している。

大学の誘致というのも一つの夢物語であり、大学のサテライトを持ってくるのもよいのでは。関学のMBAビジネススクールは、茶屋町アプローチタワーで土日に講義を実施しているが、そういった拠点が神戸にはない。大学そのものは敷地条件として難しいが、関学に限らずサテライトを誘致してはどうか。

それとは別に話をさせてもらおうと、神戸にランドマークがあるのか。ポートタワーがランドマークなのかという話はあるが、新たなランドマークは必要ではないか。ビルなのか何かは別にして、中心部の駅から見渡した際、ランドマークがみえる場所になってほしい。6000万人を目指すインバウンドの増加を考えると、県のランドマーク性をこの地に求めるべき。三ノ宮駅周辺か神戸駅周辺か他の地に求めるのが適当かは、兵庫県全体の考え方であるが、この機会に元町というこの地に新たなランドマークを考えることができれば。

今年が行革の節目であり、震災からの一定の区切りの年に、選択と集中ということで、この地域に集中として巨額の資金を投入して、県として一大事業を行うことを、県民に対し情報発信していくべき。その際に、150年の節目の再スタートとしての位置づけにできないか。

兵庫県は人口流出県であり、ワースト3位に入っている。県内GDPは元々全国5位だったが、全国8位に落ちている。選択と集中のことがあって、どんどん大阪に集中しており、梅田、難波、天王寺は拠点となる施設が出来ている。神戸にも、象徴的な拠点を名称とともにつくる必要がある。

拠点とはそもそも何なのか。グランフロント大阪にあるようなラボラトリー機能などもそうである。都市の力量を示す指標の一つとして、quality of business information という言葉があるが、情報拠点が必要になってきている。外資系企業の本社や支社、事務所でも良いので、そのような拠点が集積できるようなクオリティの高い拠点として、元町山手地区を位置づけることが出来れば。

究極のワークライフバランスは「不夜城」であると外資系企業の社長から聞いたことがある。グローバル化の視点からすると、裁量労働ということである。グローバルな都市機能を考えると、24時間拠点到成らざるを得なくなってくる。海外のビジネス拠点を誘致するのであれば、絶えず動くまちを象徴的にできるような拠点ができないか。

それらに向けて、何を誘致するのか。視点としては、サテライトキャンパス、ランドマーク性を持った外資系ホテル、マンションも必要になってくる。

県民会館だが、元町駅と直結したものとしてはどうか。駅と直結した県庁、駅と直結したホテルなど、どれだけ融合できるか。その一方で、公館、相楽園、栄光教会など伝統的な建築物は残して、それらを含めた県庁の場所の検討が必要。親しまれているこの地に県庁を置いておくことには意義

がある。

県民会館に入居している団体を含め、周辺事務所の集約、県としてのイノベーションをどう起こしていくのか。機能性も含めた議論をこの委員会で行う必要があると思う。

(委員) この地区において、様々な機能が集積し、相互が響き合い威力を増すということが理想であり、24時間都市としての中でのビジネスセンターといった複合的・複能的な構成というのがこれからの基本である。

その中で、先ほどから議論になっている都市空間、あるいは都市景観として魅力と安らぎのある環境形成をどう図っていくかが、今後の柱になっていくと思う。

(委員) 観光面では、インバウンドだけに偏らせず、県内、国内も誘致が必要である。県内で見ても五国の他地域のことを知らない人が多い。バランスは大切である。

また、「質の高い」というフレーズは非常に大事である。インバウンドを呼び込むにしても、今は質が問われる。まちづくりでも、特に神戸は質が良い、品があるというイメージもあるので、質と品を貫くまちを。

兵庫は他所と何が違うかを考えたとき、大阪は全ての集客施設が一つに集積している百貨店型、兵庫は一軒一軒自分の好きな店を訪れる個店型である。それは兵庫の良さでもある。全てを都市のど真ん中に集中させるのか、これまでの神戸の良さを大事に、個々を回るという生き方を貫くのか、考慮しながら検討を進めていく必要がある。

(委員) もともと元町にあった駅を三ノ宮に移転した経緯があるが、拠点性は環境が生み出すと考えた時に、三宮駅と元町駅を一本化して、長い空間化を図ってはどうか。夢物語としてだが。神戸は三宮からハーバーランドといった横の人の動きが重要な流れであるので、三ノ宮元町駅として、それを起点に北や南へ人が流れていく状況を作ってはどうか。

駅を境に南北で遮断されており、南北の人のアクティビティの障壁となっているものを排除する議論がない限り、県庁を中心としたゾーンの役割を生み出せないのではないかと思う。

(委員) 震災直後から、神戸三宮にサテライトキャンパスの誘致を唱えてきたが実現しなかった。サテライトキャンパスを誘致すると学生がくるので街が変わる。

また、この神戸でビジネスセンターの役割はどこか、人が多いのはどこかとなると、県庁や市役所になる。そこに人材が集積しており、そこだけでも十分成立するのではないかと思う。

(事務局)

たくさんの意見をいただき心より感謝申し上げます。歴史文化が実感できるまちだという言葉もいただいたので、この街の良さを活かしながら、まちづくりの方向性を打ち出して行きたい。

まちにおける回遊性の重要性に関する意見、まちづくりの軸についても意見をいただいた。さらに、新しい賑わい作りが課題であると認識しているが、ランドマークとなるような大学やホテル、外資系オフィスといったようなご提案もいただき、兵庫五国の情報の発信拠点にという話もいただいた。

そういった提案については、次回までに再整理し、まちの基本理念、基本方針といったところに落とし込むべく作業を進めていく。

また、事実に基づいて提案をすべきとお叱りもいただいたので、神戸市と連携しながら、しっかり裏づけが出来るかどうか、資料を整えていく。

さらに、大元となる県庁のあり方についても、整理させていただければと思う。

いずれにしても、非常に大掛かりな事業であり、震災から20年以上が経過し、行革の最終年を今年迎えて、こういった検討が出来る状況まで辿り着いた。県民に求められる県庁のあり方、さらには元町山手地区のまちづくりの将来像について、各委員の意見をいただきながら、しっかりとまとめて行きたいと考えているので、今後ともよろしくお願い申し上げます。